

農村の もりびと むら 守り人

～奥山さんに学ぶ農村の未来～

奥山 勝明さん

きれいな水を守る

最上町の立小路地区たちこうじは、山々から集まった沢の水が最初に流れてくる集落だ。立小路地区で営農している奥山勝明さんは「ここに流れてくるきれいな水を使って、米づくりができることをとても誇りに思っている。きれいな水を使わせてもらっているから、水を汚してはいけない。下流域の集落に迷惑をかけるわけにいかない」と語ってくれた。

奥山さんとアイガモ農法

奥山さんは「きれいな水を守る」という理念のもと、この20年、アイガモ農法を続けている。自分の地区の水を農薬で汚すのが心苦しいからだそうだ。

アイガモたちの力をかりて育てた無農薬米「夢まどか」は、直接販売のほか、ふるさと納税の返礼品として全国へ送られている。中には九州から問い合わせる人もいそうだ。





奥山さんの作った地酒「山と水と、」

奥山さんと地酒

奥山さんは自慢の水をさらに活用するため、地区の水と自らつくった酒米を用いて、地域の人たちと地酒づくりを始めた。味の方向性や名前などは、立小路地区の人たちが集まった会議で決定した。こうしてできた地酒「山と水と、」は販売開始3日で売り切れるほどの人気ぶりだった。今年、酒米の生産量を増やして、より多くの地酒を作る予定だ。遠方から、ネット販売してほしいとの声も出ているが、奥山さんは「ぜひ、最上町に遊びに来て自分たちの作った地酒を飲んでもらいたい。」と話す。

次世代へとつなぐ農村

奥山さんは「若者たちは魅力のないところには来ない。いかに人を惹きつけるかが重要だ。」と言う。これまでの経験を次世代へと伝えるため、冬の収入源としてのたらの芽栽培など、農業の魅力を地域の若者たちにアピールし一緒に取り組んでいこう。

——農村を守っていく活力の源について聞いてみた。

「以前、『おいしい初めのために、安全安心な米が欲しくて購入した』という手紙をもらった。自分の作った米を食べてくれるファンがいると思うと、多少辛くても頑張れる。」と答えてくれた。農村を守る人を応援するためにまずは地元の米を食べることから始めてはいかがだろうか。



アイガモ農法で作った「夢まどか」



田んぼが濁って、雑草が生えにくくなる!

雑草や虫を食べてくれる!

アイガモのフンが肥料になる!

～アイガモ農法とは?～

<メリット>

- アイガモが田んぼの水や土を攪拌してくれる。
- 雑草が生えにくくなったり、雑草や虫を食べてくれたりする。
- 除草剤や殺虫剤を播く必要が無く、無農薬で米づくりができる。

<デメリット>

- △野生の鳥獣からカモを守るために電気柵や防鳥ネットを張る必要があり、労力もかかる。